D部門論文委員会意見交換会

2025年8月21日（木）

12時10分～12時50分

徳島大学 常三島キャンパス 共通講義棟 3F K302

議事次第

1. 論文委員会の体制紹介・編修長・英文編修長あいさつ

熱海和文誌編修長・藤本英文誌編修長

2. 最近の和文論文誌委員会・英文論文誌委員会の活動について

3. 査読マニュアルについて

熱海和文誌編修長

4. 和文論文誌・英文論文誌の論文投稿・掲載状況について

および戦略委員会の活動報告

熱海和文誌編修長・藤本英文誌編修長

5. 論文委員意見に対する回答

熱海和文誌編修長・藤本英文誌編修長

西村 D4 主査

6. 意見交換 (12:50終了)

産業応用部門 和文論文誌 編修長
熱海 武憲 (千葉工業大学)

英文論文誌 編修長
藤本 康孝 (横浜国立大学)

最近の和文論文誌委員会・ 英文論文誌委員会の活動について

産業応用部門 和文論文誌 編修長

熱海 武憲 (千葉工業大学)

英文論文誌 編修長

藤本 康孝 (横浜国立大学)

★ねらい

- 新査読システムへの移行
- D部門としてのグローバル化
- 国際的な情報発信の促進
- 英文論文誌のクオリティ向上
(IF向上に向けた施策)

- 「英文論文誌戦略委員会」で各種対策を実施
ESCIでのJIF取得 (2023.6.28)
- ジャーナルインパクトファクタ取得後のIF向上対策
クラリベイトアナリティクスを通じた広報
雑誌Natureでの広報

5 D部門における論文委員会 (和文論文誌)

6 D部門における論文委員会 (英文論文誌)

和文論文誌論文委員会の組織

和文論文誌論文委員会の構成

9 2025年度和文論文誌論文委員会幹事等

D1	役職	氏名	所属
	主査	長谷川 一徳	九州工業大学
	副主査	萩原 誠	北海道大学
	幹事	新井 卓郎	(株)東芝
	〃	加藤 康司	(株)GSユアサ
	〃	山田 洋明	山口大学

D2	役職	氏名	所属
	主査	吉浦 泰史	(株)安川電機
	副主査	大屋 英稔	東京都市大学
	幹事	竹内 一生	(株)トーショー
	〃	大場 譲	仙台高等専門学校

D3	役職	氏名	所属
	主査	中村 健二	東北大学
	副主査	井上 征則	大阪公立大学
	幹事	木村 守	(株)日立産機システム
	〃	上野 哲	立命館大学
	〃	浅野 能成	ダイキン工業(株)
	〃	佐藤 光秀	信州大学
	〃	大道 哲二	長崎大学
	〃	清田 恭平	東京科学大学

D4	役職	氏名	所属
	主査	西村 和則	名古屋大学
	副主査	井上 馨	同志社大学
	幹事	横川 勝也	(株)東芝
	〃	岩岡 浩一郎	金沢学院大学
	〃	渡邊 翔一郎	東京電機大学
	〃	安里 健太郎	沖縄工業高等専門学校
	〃	笹山 瑛由	九州大学
	〃	清水 修	東京大学
	〃	中村 勇太	名古屋工業大学

英文論文誌編修長：藤本康孝（横浜国立大学）

英文論文誌編修長補佐：元井直樹（神戸大学）

編修長	藤本康孝	横浜国立大学
編修長補佐	元井直樹	神戸大学

	役職	氏名	所属
D6	主査	和田圭二	東京都立大学
	副主査	名取賢二	千葉大学
	幹事	小原秀嶺	横浜国立大学
	幹事	梅谷和弘	九州大学
	幹事	磯部高範	筑波大学
	幹事	前川佐理	明治大学

	役職	氏名	所属
D7	主査	石川 潤	東京電機大学
	副主査	藤本康孝	横浜国立大学
	幹事	元井直樹	神戸大学
	幹事	下野誠通	横浜国立大学
	幹事	伊藤和晃	岐阜大学
	幹事	道木加絵	愛知工業大学
	幹事	藪井将太	東京都市大学

	役職	氏名	所属
D8	主査	小坂 卓	名古屋工業大学
	副主査	近藤圭一郎	早稲田大学
	幹事	朝間淳一	静岡大学
	幹事	山本 修	職業能力開発総合 大学校
	幹事	深山義浩	三菱電機(株)
	幹事	宮島孝幸	ダイキン工業(株)
	幹事	杉元紘也	東京電機大学
	幹事	隅田悟士	(株)日立製作所

和文特集号の企画数と総投稿数

年	企画数	投稿数
2025年	3	87【08/13時点】
2024年	3	129
2023年	1	144
2022年	6	172
2021年	4	179
2020年	2	229
2019年	7	239
2018年	4	312
2017年	4	268
2016年	3	245

14 ScholarOne Manuscriptへ査読システム移行 (1)

- これまでの査読システムは、電気学会独自のシステムを構築し、電気学会内のサーバにて運用していた。
- そのため、クラウド化には対応困難となっており、火災等の被害が発生した場合、貴重な投稿論文データが失われる状況にあった。
- 電気学会でのタスクフォースで検討した結果、ScholarOne Manuscriptへの移行が最適との結論となった

15 ScholarOne Manuscriptへ査読システム移行 (2)

査読マニュアルは「査読結果報告要領」をご確認ください。

査読 IEEJ-2024-0032.R3

論文ブレード ▾

0 ファイル 詳細

査読について

🔍 検索ツール

- 右のスクロールバーを使用して査読シートをスクロールします。該当するすべての質問に回答してください。
- 査読結果の入力の際に、作業の途中で入力内容をシステム上に保存したい場合、画面下部の「一時保存」をクリックしてください。
- 査読結果を提出する場合は、画面下部「査読提出」をクリックしてください。

査読結果入力の際は以下の点にご注意ください。

- 「**査読結果報告要領**」をご確認の上、査読を実施してください。特に再査読の論文、資料の場合、ご自身の初回査読の照会事項だけでなく、もう一人の初回査読者の照会事項に対しても著者が対応しているか、ご確認ください（初回査読者2名の

16 ScholarOne Manuscriptへ査読システム移行 (3)

過去の査読者のうち、論文委員を務められている方については、旧査読システムからS1Mへのデータ移行を行っております。

一方で、論文委員でない査読者の方に関しては、データの移行は行っておりません。そのため、該当する方の情報は旧システムにて検索いただく必要がございます。

D部門英文論文誌 (JIA)

- グローバル化⇒D部門の高度な技術を世界へ。情報発信は英語で！
(共通英文論文誌: scopeが広すぎる)
- IEEE (IEEE Xplore) との差別化
 - ①電気学会の査読基準(有用性、オリジナリティ、新規性)、
 - ②きめ細かい査読プロセス ③有用性のある論文を掲載する

現状: Free Access. 海外著者は投稿料実質無料

一流論文誌として認められる(海外から読まれる論文誌)となるために:

Web of ScienceのSCI登録(インパクトファクター)を
目指していましたが、2023年6月に取得できました
(Journal Impact Factor, JIF)

- SCIE (Science Citation Index Expand)
 - Clarivate Analytics社(クラリベイトアナリティクス社)
 - (2016年Thomson Reuter社から分離)の学術雑誌データベース
- サイテーション・インデックス(引用索引)による論文誌評価

これまでの英文論文誌戦略委員会でのタスク (委員長:横山智紀(東京電機大学))

- JIA論文引用の促進
- Early access の実現(2020/10~)
- 著名研究者の招待論文の促進
- 国際共著論文の促進
- 日本開催の国際会議論文をJIAへ誘導
- 査読促進賞(定常運用)(査読期間短縮)
- JIA Cool Japan論文シリーズの開始
- JIA Finderの運用開始
- クラリベイト社による広報メール発信
- インパクトファクター値を上げていく努力が必要
- 戦略委員会 から JIF向上委員会へ
- 次の目標 JIF=2.0以上を目指します.
さらにQ1を目指して!

みなさまのご協力が必要です

インパクトファクターとは

- SCIEに登録された雑誌で、評価する年の前の2年間に参考文献として引用された数値の平均値
- 2024年のインパクトファクター例

(A) = 2022年、2023年に雑誌Pに掲載された論文※が2024年中に引用された回数

(B) = 2022年、2023年に雑誌Pが掲載した論文数

雑誌Pの2024年のインパクトファクター = A/B

※掲載年月日 = 早期公開の年月日

JIAプレゼンス向上に向けたお願い

- D部門では、主催する国際会議の特集号の有無によって投稿数が大きく変動する（IPECとICEMSがあるため、隔年で投稿数が大幅に増える）
JIFの計算式では分母が大きくなるため、引用数も増やさないとJIFは下がってしまう
 - 2023年はIPECの特集号が増えた分を上回る引用数が得られなかったため、JIFが下がった。また、コロナ禍で国際会議の参加者数が減少したことも影響している
 - 2年間の論文掲載数は約200件であり、JIF=1.0ということは、JIAの論文の2年間の総引用数が200件であることを意味する。JIAの論文同士の引用もカウントされるので、JIAの論文1編につきJIA論文の引用が1件あれば、JIF=1.0となる
 - つまり、現状では引用数がまだ十分ではないといえる
- D部門会員の皆様には、国際会議論文やJIA論文の執筆の際に、2023年、2024年、2025年のJIA論文の引用をお願いします。それだけでJIF=2.0は十分に実現可能です（IPEC, ECCE, ICEMS, IECON, APEC, AMC, ICM, SPEC, その他IEEE関連会議）
- JIFが上がれば海外からの引用も増え、ポジティブスパイラルに入ることを期待しています

奇数月 15日に配信される電気学会D部門メールマガジン

★★ 電気学会D部門英文論文誌の引用文献用データの御案内 (2025.7.15) ★★

〇〇 〇〇 様

産業応用部門 英文論文誌論文委員会 編修長 藤本康孝

情報提供：一般社団法人電気学会

※本メールは電気学会会員（産業応用部門にご所属）でメールアドレスをご登録いただいている皆様にお送りしております。

電気学会D部門英文論文誌(IEEJ Journal of Industry Applications, JIA)において2023年から2025年に発行された論文を以下にご紹介します。IEEE論文誌や国際会議など、Web of Scienceに収録されている学術誌や国際会議に投稿される際の参考文献として、ぜひご活用ください。なお、電気学会D部門英文論文誌(IEEJ Journal of Industry Applications)は、以下のリンクよりどなたでもアクセス可能で、ID・パスワード不要でフリーダウンロードいただけます。

リストは、新規分・従来分を分野別に分類して掲載しています。
また、論文の分類ワードおよび各論文のKeywordsも記載しており、
関連論文を見つけやすくなっております。ぜひご参照ください。
#####

JIA閲覧トップページ

<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/ieejjia>

New Coming: (Vol.14, No.4)

[D6: Power Electronics and Its Applications]

[Design and Control Methods for Electric Vehicle Charging in Wireless Power Transfer Topologies]

Jalaj Kumar, Ritesh Gupta, Avani Pandey, Suvendu Samanta, and Akshay Kumar Rathore, "Design and Control Methods for Electric Vehicle Charging in Wireless Power Transfer Topologies", IEEJ Journal of Industry Applications, Volume 14, Issue 4, pp. 509--522, 2025.

[Keywords: wireless power transfer (WPT), constant current (CC), constant voltage (CV), constant power (CP)]

https://www.jstage.jst.go.jp/article/ieejjia/14/4/14_24010874/_pdf/-char/en

↓ 以後、同じように、文献が続く。

この情報から、ご自身の論文の引用に適した論文の検索をお願いします
(指導学生にも共有をお願いします)

論文の引用には、このままコピー&ペーストでOK

これから執筆する論文には、2025, 2024, 2023年のJIA論文の引用をお願いします

- Home
- Paper Submission
- Online Journal
- Call for Papers (Special Issue)
- International Editorial Advisory Board
- Editorial Board
- For Authors
- For Reviewers
- Editorial Board Meetings
- Link
- Contact
- List of Published Papers

Last updated: 2022 Aug. 5
Copyright © 2012-2022 IEEJ

IEEJ-JIA Home

JIA FINDER
Journal of Industry Applications Finder

JIA FINDERでキーワード、著者検索可能です
利用をよろしくお祈いします

IEEJ-JIA Topic:

- Clarivate announces changes to the 2023 Journal Citation Reports (July.26.2022) (ESCI journals will receive a Journal Impact Factor (JIF) in the 20223 release of the Journal Citation Reports)
- JIA Finder is now available! (Search engine of JIA database)
- Announcement of the Introduction of "Early Release" Function to IEEJ Journal of Industry Applications (JIA)

Aims of IEEJ Journal of Industry Applications:

In order to convey to the world new technical information, and creative / original theories in the fields of electrical and Electronics Industry Applications, IEEJ started publishing "IEEJ Journal of Industry Applications" from July 2012 in English, bimonthly.

The members of Industry Applications Society, the Institute of Electrical Engineers of Japan (IEEJ), are very pleased to hear that the society is issuing IEEJ Journal of Industry Applications, a bimonthly that is completely in English, from July 2012. It is with great pleasure that we invite engineers, scientists, professors, and students engaged in the fields of Electrical and Electronics Industry Applications to become members of the society and partake in its various activities. IEEJ Journal of Industry Applications is different from Transactions on Electrical and Electronic Engineering (TEEE) and IEEJ Transactions on Industry Applications (Japanese), and it is the official English journal of IEEJ Industry Applications Society. In order to convey to the world new technical information and creative and original theories in the fields of Electrical and Electronics Industry Applications, it is very important for the IEEJ Industry Applications Society to have a high-quality international journal. IEEJ Transactions on Industry Applications is one such journal. However, it is published in Japanese and hence cannot be regarded as an international journal. Therefore, IEEJ Industry Applications Society intends to publish the journal in English from July 2012, bimonthly. The electronic version of IEEJ Journal of Industry Applications, such as PDF files, will also be available on the website. Moreover, this open access journal, the official English journal of IEEJ Industry Applications Society, is available to all free of any download charges. Therefore, engineers, scientists, professors, and students worldwide can read IEEJ Journal of Industry Applications easily and quickly. The members of IEEJ Industry Applications Society, including me, hope that IEEJ Journal of Industry Applications will soon be the global favored journal of engineers, scientists, professors, and students worldwide in the fields of Electrical and Electronics Industry Applications.

全論文リスト(新しいもの順)

- Home
- Paper Submission
- Online Journal
- Call for Papers (Special Issue)
- International Editorial Advisory Board
- Editorial Board
- For Authors
- For Reviewers
- Editorial Board Meetings
- Link
- Contact
- List of Published Papers

Last updated: 2022 Aug. 5
Copyright © 2012-2022 IEEJ

List of Published Papers

Index : Power Electronics and Its Applications (D6)

Vol.11.no.4.(202207)| Vol.11.no.3.(202205)| Vol.11.no.2.(202203)| Vol.11.no.1.(202201)|
Vol.10.no.6.(202111)| Vol.10.no.5.(202109)| Vol.10.no.4.(202107)| Vol.10.no.3.(202105)| Vol.10.no.2.(202103)| Vol.10.no.1.(202101)|
Vol.9.no.6.(202011)| Vol.9.no.5.(202009)| Vol.9.no.4.(202007)| Vol.9.no.3.(202005)| Vol.9.no.2.(202003)| Vol.9.no.1.(202001)|
Vol.8.no.6.(201911)| Vol.8.no.5.(201909)| Vol.8.no.4.(201907)| Vol.8.no.3.(201905)| Vol.8.no.2.(201903)| Vol.8.no.1.(201901)|
Vol.7.no.6.(201811)| Vol.7.no.5.(201809)| Vol.7.no.4.(201807)| Vol.7.no.3.(201805)| Vol.7.no.2.(201803)| Vol.7.no.1.(201801)|
Vol.6.no.6.(201711)| Vol.6.no.5.(201709)| Vol.6.no.4.(201707)| Vol.6.no.3.(201705)| Vol.6.no.2.(201703)| Vol.6.no.1.(201701)|
Vol.5.no.6.(201611)| Vol.5.no.5.(201609)| Vol.5.no.4.(201607)| Vol.5.no.3.(201605)| Vol.5.no.2.(201603)| Vol.5.no.1.(201601)|
Vol.4.no.6.(201511)| Vol.4.no.5.(201509)| Vol.4.no.4.(201507)| Vol.4.no.3.(201505)| Vol.4.no.2.(201503)| Vol.4.no.1.(201501)|
Vol.3.no.6.(201411)| Vol.3.no.5.(201409)| Vol.3.no.4.(201407)| Vol.3.no.3.(201405)| Vol.3.no.2.(201403)| Vol.3.no.1.(201401)|
Vol.2.no.6.(201311)| Vol.2.no.5.(201309)| Vol.2.no.4.(201307)| Vol.2.no.3.(201305)| Vol.2.no.2.(201303)| Vol.2.no.1.(201301)|
Vol.1.no.6.(201211)| Vol.1.no.5.(201209)| Vol.1.no.4.(201207)| Vol.1.no.3.(201205)| Vol.1.no.2.(201203)| Vol.1.no.1.(201201)|

Index : Motion Control, Robotics, Sensing and their Applications (D7)

Vol.11.no.4.(202207)| Vol.11.no.3.(202205)| Vol.11.no.2.(202203)| Vol.11.no.1.(202201)|
Vol.10.no.6.(202111)| Vol.10.no.5.(202109)| Vol.10.no.4.(202107)| Vol.10.no.3.(202105)| Vol.10.no.2.(202103)| Vol.10.no.1.(202101)|
Vol.9.no.6.(202011)| Vol.9.no.5.(202009)| Vol.9.no.4.(202007)| Vol.9.no.3.(202005)| Vol.9.no.2.(202003)| Vol.9.no.1.(202001)|
Vol.8.no.6.(201911)| Vol.8.no.5.(201909)| Vol.8.no.4.(201907)| Vol.8.no.3.(201905)| Vol.8.no.2.(201903)| Vol.8.no.1.(201901)|
Vol.7.no.6.(201811)| Vol.7.no.5.(201809)| Vol.7.no.4.(201807)| Vol.7.no.3.(201805)| Vol.7.no.2.(201803)| Vol.7.no.1.(201801)|
Vol.6.no.6.(201711)| Vol.6.no.5.(201709)| Vol.6.no.4.(201707)| Vol.6.no.3.(201705)| Vol.6.no.2.(201703)| Vol.6.no.1.(201701)|
Vol.5.no.6.(201611)| Vol.5.no.5.(201609)| Vol.5.no.4.(201607)| Vol.5.no.3.(201605)| Vol.5.no.2.(201603)| Vol.5.no.1.(201601)|
Vol.4.no.6.(201511)| Vol.4.no.5.(201509)| Vol.4.no.4.(201507)| Vol.4.no.3.(201505)| Vol.4.no.2.(201503)| Vol.4.no.1.(201501)|
Vol.3.no.6.(201411)| Vol.3.no.5.(201409)| Vol.3.no.4.(201407)| Vol.3.no.3.(201405)| Vol.3.no.2.(201403)| Vol.3.no.1.(201401)|
Vol.2.no.6.(201311)| Vol.2.no.5.(201309)| Vol.2.no.4.(201307)| Vol.2.no.3.(201305)| Vol.2.no.2.(201303)| Vol.2.no.1.(201301)|
Vol.1.no.6.(201211)| Vol.1.no.5.(201209)| Vol.1.no.4.(201207)| Vol.1.no.3.(201205)| Vol.1.no.2.(201203)| Vol.1.no.1.(201201)|

Index : Electric Machine, Motor Drive and their Applications (D8)

Vol.11.no.4.(202207)| Vol.11.no.3.(202205)| Vol.11.no.2.(202203)| Vol.11.no.1.(202201)|
Vol.10.no.6.(202111)| Vol.10.no.5.(202109)| Vol.10.no.4.(202107)| Vol.10.no.3.(202105)| Vol.10.no.2.(202103)| Vol.10.no.1.(202101)|
Vol.9.no.6.(202011)| Vol.9.no.5.(202009)| Vol.9.no.4.(202007)| Vol.9.no.3.(202005)| Vol.9.no.2.(202003)| Vol.9.no.1.(202001)|

インパクトファクターの計算には
過去二年の論文の引用が必要
それ以前の論文引用はカウントされません
過去二年の論文を中心に引用をお願いします

Power Electronics and Its Applications (D6)

Vol.11, no.4

- Katsuke Kusaka, Rintaro Kusai, Jun-ichi Itoh, Daisuke Sato, Tetsu Shijo, Shuichi Obayashi, and Masaaki Ishida "A 22kW Three-phase Wireless Power Transfer System in Compliance with CISPR 11 and ICNIRP 2010," IEEJ J. Industry Applications, vol. 11, no. 4, pp. 594-602, 2022. [4473ab](#)
[Keywords: electromagnetic compatibility, electromagnetic induction, inductive power transmission, wireless power transmission]

Vol.11, no.3

- Kikuko Miyata, Arata Takaki, and Susumu Hara "Model-Based Efficient and Safe Spacecraft Operations Planner Focusing on Battery State Management," IEEJ J. Industry Applications, vol. 11, no. 3, pp. 447-457, 2022. [4473ab](#)
[Keywords: battery management systems, operations planning, power system modeling, spacecraft]
- Shotaro Takahashi and Sori Maekawa "Wideband Small-Signal Model of Common-Mode Inductors Based on Stray Capacitance Estimation Method," IEEJ J. Industry Applications, vol. 11, no. 3, pp. 514-521, 2022. [4473ab](#)
[Keywords: common-mode inductors, EMI, MnZn ferrites, nanocrystalline, stray capacitance]

Cool Japan ~ JIA's feature article on Japanese cutting-edge technology.

Online version

Dear Dr. Urata,

It is our pleasure to inform you that following inspiring and foresighted research paper from IEEJ Journal of Industry Applications has been published. We have sent to you this email because you are an author of the article indexed in Web of Science and believe this research may be of your interest.

Cool Japan - JIA's feature article on Japanese cutting-edge technology.

Author: Kenji Sato, Hirokazu Kato, Takafumi Fukushima

"Outstanding Technical Features of Traction System in N700S Shinkansen New Generation Standardized High Speed Train"

This paper presents a novel traction system silicon carbide (SiC)-applied and lithium-ion battery equipped for a world top class Shinkansen N700S train.

DOI: 10.1541/ieejia.20012560

https://www.jstage.jst.go.jp/article/ieejia/10/4/10_20012560/article-char/en

Author: Kantaro Yoshimoto, Tomoyuki Hanyu

"NISSAN e-POWER: 100% Electric Drive and Its Powertrain Control"

This paper presents a novel traction system silicon carbide (SiC)-applied and lithium-ion battery equipped for a world top class Shinkansen N700S train.

DOI: 10.1541/ieejia.20013024

https://www.jstage.jst.go.jp/article/ieejia/10/4/10_20013024/article-char/en

Author: Masaki Okamura,

"The Evolution of Electric Components in Prius"

This paper presents the technology for the evolution of a hybrid electric traction system for Toyota launched the first massproduced hybrid electric vehicle, the Prius.

DOI: 10.1541/ieejia.21007126

https://www.jstage.jst.go.jp/article/ieejia/advpub/0/advpub_21007126/abstract

JIA Finderのページ : Most viewed articles Recommended articles

JIA Most Viewed Articles

- 1 Contact Force Estimation and Sensorless Force Control in Piezoelectric Bending Actuators
Issue date:
- 2 A 22kW Three-phase Wireless Power Transfer System in Compliance with CISPR 11 and ICNIRP 2010
Issue date:
- 3 Outstanding Technical Features of Traction System in N700S Shinkansen New Generation Standardized High Speed Train
Issue date:

Recommended Articles

<p>Silent Sensorless Servo</p> <p>Position Sensorless Adaptive Positioning Servo System with Simplified Differential Calculation and High-Frequency Voltage Injection Strategy Considering Acoustic Noise Suppression</p> <p>Electric Machine, Motor Drive</p> <p>position sensorless control, positioning servo system, adaptive control</p> <p>Naoki Kawamura, Tadanao Zama, Kenta Koike, Kang-Zhi Liu, Masaru Hasegawa vol.10, no.1, pp.1-10 Issue date: 2021-01-01</p> <p>Abstract Full paper</p>	<p>Computational Aspect Analysis of Real-Time Systems: Application to HDD Servo Control</p> <p>Motion Control, Robotics, Sensing</p> <p>co-simulation, computational aspect, real-time control</p> <p>Kenta Morishima, Shigeru Oho vol.8, no.1, pp.124-130 Issue date: 2019-01-01</p> <p>Abstract Full paper</p>	<p>PWM Boost Converter Integrating Differential Power Processing Energy to Enhance Energy Yield of Photovoltaic Panels Under Mismatch Conditions</p> <p>Power Electronics</p> <p>differential power processing converter, integrated converter, uneven irradiance, photovoltaic panel</p> <p>Masatoshi Uno, Yusuke Sasaki vol.10, no.1, pp.91-99 Issue date: 2021-03-01</p> <p>Abstract Full paper</p>
<p>High-speed Core Loss Base Data Collection for Core Loss Calculation Under Power Electronics Converter Excitation</p> <p>Power Electronics</p> <p>core loss calculation, core loss measurement, datasheet, inductor, transformer</p> <p>Hiroaki Matsumori, Toshihisa Shimizu, Takashi Kuroki, Naohiroshi Matsui</p>	<p>Time-Variant Haptic Simulator Based on Fine and Fast Real-Time Discretization Using FDTD Method, IEEJ Journal of Industry Applications</p> <p>Motion Control, Robotics, Sensing</p> <p>real-time discretization, time-variant system, FDTD method, multi-inertia resonance system, admittance control, haptic</p>	<p>Distributed Winding IPM Motor using Amorphous Metal Teeth</p> <p>Electric Machine, Motor Drive</p> <p>iron-based amorphous metal, IPM motor, motor efficiency, magnetic characteristics, iron loss</p> <p>Tuji Enomoto, Minoru Nagata, Takao Imagawa</p>

再度の引用のお願い

JIA投稿論文、国際会議論文作成の際、

- ダイジェストバージョン、推敲バージョンから、引用論文にJIA論文を含めていただきますようお願いいたします
(2025年、2024年、2023年のJIA論文)
- 大学院生へのご指導をよろしくお願いいたします

JIA論文査読時に、論文幹事より引用推奨論文を提示する運用を開始しております

引き続き、よろしくお願いいたします

和文論文誌D（論文）

論文掲載判定までの所要月数

査読期間
[月]

英文論文誌D（論文）

論文掲載判定までの所要月数

査読日数分布

査読者(x軸)一査読日数
(y軸) 分布
期間: 2021年1月1日-
2021年12月31日

査読者(x軸)一査読日数
(y軸)分布
期間: 2022年1月1日-
2022年12月31日

査読者(x軸)一査読日数
(y軸)分布
期間: 2023年1月1日-
2023年12月31日

査読者(x軸)一査読日数
(y軸)分布
期間: 2024年1月1日-
2024年12月31日

● R1平均日数 ● R2平均日数 ● R3平均日数 ● R1平均日数 ● R2平均日数 ● R3平均日数 ● R1平均日数 ● R2平均日数 ● R3平均日数 ● R1平均日数 ● R2平均日数 ● R3平均日数

平均査読日数

共通英文論文誌（D部門投稿論文）

論文掲載判定までの所要月数

現時点での査読マニュアル

産業応用部門 和文論文誌 編修長
熱海 武憲 (千葉工大)

査読作業に当たって入手した情報は、守秘義務の対象となります。下記条項をご確認頂き、当該義務を負う場合に限り査読作業を継続して下さるようお願い申し上げます。

電気学会規程「部門編修規程細目」(部門共通・規程1-1)第5条3項

『論文査読者は、投稿原稿等の内容を掲載前に外部に漏らしてはならず、また照会に際しては、投稿者に対して行き過ぎた研究指導やこれに類する行為を行ってはならない。』

査読作業は次の通りです

- 査読を依頼された論文の 原稿1ページ目 表示ボタンを押すと投稿原稿の1ページ目が閲覧できます。
- 査読を受諾していただける場合は、受諾 ボタンを押して下さい。
- 受諾後、査読を行う原稿の 原稿表示 ボタンを押すと、投稿原稿の全文が閲覧できます。

部門編修規程細目

(査読者)

第5条 論文等の査読は、論文委員会を通じて、論文および資料の場合は2名の査読者に、また研究開発レターとして投稿された場合は1名の査読者にそれぞれ委嘱してこれを実施する。

2. 論文等の査読を担当する査読者名および査読内容は公表しない。

3. 査読者は、論文等の内容を掲載前に外部に漏らしてはならず、また照会に際しては、投稿者に対して行き過ぎた研究指導やこれに類する行為を行ってはならない。

- 目的
 - 論文査読の基準を明確にすること。
 - 論文投稿者と査読者が論文に対して共通の認識を持つこと。
- 査読期間を短縮すること。
- 査読に対する不公平感をなくすこと。

- 論文の内容に対する全責任は投稿者にある。
- 論文の査読は論文指導ではない。
- 論文の価値の評価をするのは査読者ではなく、読者である。
 - 投稿者は評価に耐えられる論文を作る。
 - 査読者は論文を早く、正しく処理する。
- 次の論文を出したくなるような査読をする。
 - 何でも掲載すればよいというのではない。
 - 論文誌のレベルが下がれば投稿する魅力もなくなる。

33 査読の要点(論文が備えるべき要件)

- 電気学術または技術に寄与するか
- 新規性, 創造性, 有用性のいずれか 1 つが認められるか
技術面だけでなく, 考え方, 応用上の問題点の指摘など, 広い観点からの新規性, 創造性, 有用性の判断がポイント
- 明白な誤り, 矛盾点がないか。論旨が一貫しているか。まえがきで指摘した問題点が, むすびで結論付けられているか
- 同一内容が発表されていないか

- 判定は4段階とし、以下の基準による。

- ① エディトリアルな修正のみ：

[掲載\(A判定\)](#)

- ② 修正内容が推奨項目(Suggested change)のみ：

[条件付き掲載\(照会后掲載\)\(B判定\)](#)

※下記の電気学会の投稿手引きとは微妙に違うので注意

判定B 条件付掲載（軽微な修正点はあるが投稿者に照会のうえ一部修正すれば掲載）。

- ③ 修正内容に必須項目(Mandatory change)を含む：

[照会后判定\(C判定\)](#)

- ④ 論文の要件を具備していない：

[返送\(D判定\)](#)

- 照会后判定(C)は初回査読のみ選択可能

35 照会文の書き方(A, B, C判定)

- ① 必須修正項目(Mandatory change),
 - ② 推奨修正項目(Suggested change),
 - ③ エディトリアルな修正項目(Editorial change)
- に分け, 判定の根拠を明確に記載する。
- ①の必須項目のある論文は, 照会后判定(C)とする。
 - ②の推奨項目と③の項目のみの論文は照会后掲載(B)とする。
 - ③の項目のみの論文は掲載(A)とする。

36 1 回目の査読で A 判定をつける場合の判定の際の注意

- 電気学術または技術に寄与していることを記載する。
- 新規性，創造性，有用性（研究開発レターでは創意性，新規性）のどれが認められるかを（複数でも良い），明確に記載する。

- 理由を具体的に、明確に記載する。
- 客観的な証拠に欠けていると判断された論文については修正の上、新たな論文としての投稿を勧める。
- 新規性、創造性、有用性のいずれも有していないことを明確に説明する。

(例)

- 既に発表されている論文 * *との違い、優位性が無い、あるいは、同一内容である。
- 論文の目的・主張・効果などが、論文記載のシミュレーションや実験データでは確認できず、新規性、創造性、有用性のどれも認められない。
- 理論式の展開の * * 部分に誤りがある。

- 掲載決定論文の内容の変更は、原則として誤字、脱字、フォントの不一致など、editorialな修正を除いて一切認められない。掲載決定後、最終原稿で意図的に内容を追加したことが明らかになった場合には、掲載の決定を取り消す場合がある。
- 査読マニュアルの内容は、常に改善してゆきます。なお査読マニュアルは産業応用部門論文委員会のページ
<http://www2.iee.or.jp/~ias/d-ron/sadoku/>からリンクできます。

参考：部門ホームページ (<http://www.iee.jp/ias/>)

論文委員意見に対する回答

和文誌編修長 熱海 武憲 (千葉工業大学)
英文誌編修長 藤本 康孝 (横浜国立大学)
D4 主査 西村 和則 (名古屋大学)

査読について： 3件
ご意見・ご質問を頂戴しました。

ありがとうございました。

R06: 3件, R05: 5件, R04: 5件, R03: 10件,
R02: 2件, R01: 5件, H30: 10件, H29: 4件,
H28: 4件, H27: 10件, H26: 11件, H25: 12件,
H24: 11件, H23: 3件

41 【ご質問】 S1Mの査読メニューについて

(1) S1Mの査読メニューの中に査読要領の最新版をリンクで追加してほしいです。幹事マニュアルは幹事メニューのなかにリンクが張ってあるので、同じように対応いただければと思います。

査読者の査読結果登録画面には、
査読結果報告要領へのリンクが
すでに貼られております。

査読 IEEJ-2024-0032.R3

論文ブレード ファイル 詳細 査読について 検索ツール

- 右のスクロールバーを使用して査読シートをスクロールします。該当するすべての質問に回答してください。
- 査読結果の入力の際に、作業の途中で入力内容をシステム上に保存したい場合、画面下部の「一時保存」をクリックしてください。
- 査読結果を提出する場合は、画面下部「査読提出」をクリックしてください。

査読結果入力の際は以下の点にご注意ください。

- 「査読結果報告要領」をご確認の上、査読を実施してください。特に再査読の論文、資料の場合、ご自身の初回査読の照会事項だけでなく、もう一人の初回査読者の照会事項に対しても著者が対応しているかご確認ください（初回査読者名のみ）

なお、査読メニューについては、実際に査読を依頼されていなくても、幹事の「査読者リスト」にリストアップされたところでメニューが自動生成されてしまう仕様のため、あえてこちらに査読結果報告要領やマニュアルは掲載していません。

42【ご質問】S1Mでの査読状況可視化について

(2) 旧査読システムでは査読の処理状況が可視化されていましたが、Scholar Oneでは不可視のようです。可視化することは難しいでしょうか。

S1Mでは、旧査読システムのように、投稿者が査読処理の進捗状況（著者、事務局、編集長、主査、幹事、査読者）を把握できる設定にはなっておりません。

誠に申し訳ございませんが、現時点では電気学会としてこの点への対応は困難であると考えております。

43【ご質問】S1Mでの査読者情報について

(3) 過去の査読者、その方の専門分野、などのリストが無いようでしたら、作成いただき、査読者選定の効率化に繋がればと思います。

いきなりシステムから連絡するのではなく、事前に承諾を得た方が、効率的な場合が少なくありません。

過去の査読者のうち、論文委員を務められている方については、旧査読システムからS1Mへのデータ移行を行っております。一方で、論文委員でない査読者の方に関しては、データの移行は行っておりません。そのため、該当する方の情報は旧システムにて検索いただく必要がございます。また、ご指摘のとおり、S1Mに不慣れな査読者の方に対しては、システムから直接連絡するのではなく、事前に幹事の方からご連絡いただくほうが、査読依頼の効率化につながる場合が多いと考えられます。

和文論文誌・英文論文誌ともに
魅力のある論文誌となりますよう
編修長・主査・副主査・幹事一同努めてまいります
論文委員の皆様方も引き続きご協力をお願いします。

これにて意見交換会を終了します

ありがとうございました